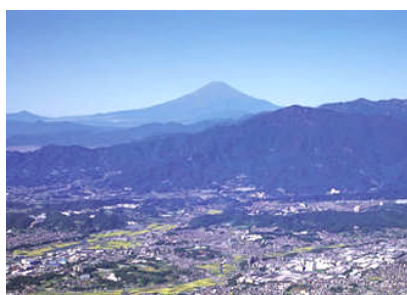


中心市街地まちづくり 提 言 書



平成24年2月

厚木市中心市街地まちづくり会議

～ はじめに ～

本厚木駅周辺の街なみは、昭和30年代から進められてきた小田急線本厚木駅の連続立体交差化事業や土地区画整理事業、市街地再開発事業等により、その骨格がほぼ形成されています。

しかしながら、時代の流れとともに中心市街地の活性化が求められていることから、新たなまちづくりを展開する上で、「市民参画と協働のまちづくり」の観点から広く市民の意見等を反映させるため、「厚木市中心市街地まちづくり会議」が平成22年11月に設置されました。構成員は、公募による市民、各団体組織の代表者、学識経験者の方々です。

まちづくり会議では、中心市街地の問題点や課題等を身近な視点から捉え、自由に意見や提案、アイデアなどを数多く出し合い、それらを実現するための諸施策を「提言書」としてまとめ上げました。


「歩いて楽しいまち」という共通テーマは、私たちがまちづくりを語り合う中で導き出されました。この提言書には、私たちの個性や経験や知識が、そのテーマの下に中心市街地のまちづくりの方向性として盛り込まれています。

最後に、市の財政も厳しい状況であると思いますが、工夫次第でお金をかけずにできることは多々あります。できることから実行し、“一つ一つ”実績の積み上げを願います。併せて、市民の視点からつくり上げた本提言書の活用と、継続的な検討がされることを期待しながら、今後においても、中心市街地の移り変わりに関心を寄せていきたいと思っております。

平成24年2月

厚木市中心市街地まちづくり会議委員一同

目次

- 1 まちづくりコンセプト 1
- 2 まちづくりへの方向性 2
- 3 まちづくりへの提言 4
- 4 推進体制について 12
- 5 上位計画の整理 13
- 6 中心市街地まちづくり会議概要 17
-  中心市街地まちづくり提言書概要

1 まちづくりコンセプト

『あつぎって歩いて楽しいよね～』、『あつぎって居心地がいいよね～』そんな言葉で満ちあふれる、生き生きとした快適空間の創出など・・・

美しい街なみ、水辺での憩い、文化芸術との触れ合い、快適で安全な歩行空間、厚木の魅力体験など、多様性のある安心して暮らせるまちづくりを目指すため、まちづくりにおけるテーマと6つの視点からなる方向性を次のとおり掲げ、まちづくりのコンセプトとしました。

■まちづくりテーマ

～歩いて楽しいまち～



■まちづくりへの方向性（6つの視点）

- (1) デザインを取り入れたまちづくり
- (2) 駅周辺の賑わいを高めるまちづくり
- (3) 相模川を利用したまちづくり
- (4) 文化芸術をいかしたまちづくり
- (5) 既存の資源・ストックを活用したまちづくり
- (6) 市が進めるまちづくり（事業推進に係る意見）

2 まちづくりへの方向性

(1) デザインを取り入れたまちづくり

⇒P4

- ①街路のデザイン
 - a. 立ち寄りたくなる店舗
 - b. 景観を意識した街なみ
 - c. 緑、土、水を配置した市街地の形成
- ②都市空間のデザイン設計
 - a. 施設間の利便性を高める街路等の改善
 - b. 人の回遊や滞留を考えた街路空間整備
- ③サインによる景観と利便性の向上

(2) 駅周辺の賑わいを高めるまちづくり

⇒P5~6

- ①中央図書館の拡充
- ②中心市街地における公共施設の集約・再配置
- ③サンパーク（人工地盤）の有効活用
- ④あつぎ大通りのトランジットモール化に向けた有効性の検証
- ⑤本厚木駅舎のリニューアルと、周辺商店街への賑わいの広がり
- ⑥バスや自転車交通の整備による快適性の向上
- ⑦企業等送迎バスの環境改善と観光バスの活用
- ⑧中心市街地における駐車場の有効活用

(3) 相模川を利用したまちづくり

⇒P7

- ①市街地近隣の自然をいかした遊歩道やサイクリングロード、気軽に楽しめるバーベキュー場等、交流の場の整備
- ②河川までのアクセスロードの整備や魅力アップ
- ③特色ある商店街（小江戸風商店、レトロな商店）や旧跡（厚木神社）等の活用

(4) 文化芸術をいかしたまちづくり

⇒P8

- ①駅近くへのホールなどの配置による活動の場所の提供
- ②気軽に触れ合うことのできる創造力豊かな文化芸術環境の整備
- ③思わず回遊したくなるような、歴史を学べる銅像等の配置

(5) 既存の資源・ストックを活用したまちづくり

⇒P9

- ①七沢・飯山温泉、大山、相模川、宮ヶ瀬等の観光資源の活用
- ②在勤・通学者等を取り込んだ滞留・回遊・散策等への誘導
- ③通りごとにテーマ性を持った仕掛けづくり

(6) 市が進めるまちづくり(事業推進に係る意見)

⇒P10~11

- ①中町第2-2地区周辺整備事業
- ②本厚木駅南口地区市街地再開発事業
- ③本厚木駅東口地下道の有効活用
- ④一番街周辺地区整備事業
- ⑤厚木パークビル（旧パルコ）の再生

3 まちづくりへの提言

(1) デザインを取り入れたまちづくり

①街路のデザイン

a. 立ち寄りたくなる店舗

しゃれた店づくり等店舗ごとに個性を出し、特徴を持たせた魅力ある店舗づくりをする。
(緑のカーテン等による店舗の外装等)



緑のカーテン

b. 景観を意識した街なみ

通りの統一した美しいデザインと歩行空間の整備により、街なみとしての魅力を向上させる。
(市民参加による景観づくりとして、店先に花などを飾り、周辺環境と一緒に整備する等)



市民参加による景観
(例: 緑による雰囲気づくり)

c. 緑、土、水を配置した市街地の形成

中心市街地に点在する、空きスペースや歩道等のデッドスペースを活用し、そこに芝生や樹木、水辺等を配置することにより、自然を取り入れた「潤いのあるまちづくり」をする。



水路のある通り(例: 金沢市)

②都市空間のデザイン設計

a. 施設間の利便性を高める街路等の改善

施設間の利用を向上させるため、施設の有効利用を高め、楽しめる空間等の整備をする。

b. 人の回遊や滞留を考えた街路空間整備

居心地の良い「憩いの場」やイベント等による「賑わいの場」として活用できるように、デザインされた空間(オープンスペース)を、中心市街地へ有効に配置する。

③サイン※による景観と利便性の向上

市内施設、旧跡・名所等の位置を分かりやすく、利用しやすくするような案内標識を設置することにより、市民への情報提供と来街者等に優しいまちづくりをする。

※サイン…案内板、標識など

(2) 駅周辺の賑わいを高めるまちづくり

①中央図書館の拡充

中央図書館は、本厚木駅やバスセンターの至近に位置するため、非常に利便性が高く、利用者も多いことから、更なるグレードアップを図り、県央随一の機能を有することにより、賑わいの一翼を担う施設機能を拡充する。



厚木シティプラザ

②中心市街地における公共施設の集約・再配置

本厚木駅周辺には、市役所を始め、シティプラザや駅前連絡所、総合福祉センター、保健センターなど、公共施設が数多く配置されており、更にその外周部には、郷土資料館や勤労福祉センターなどが立地している。



中町第2-2地区

これらの多種多様な公共施設は、より良いまちづくりに欠かせない重要な機能であるため、市民の方々にできるだけ分かりやすく（目的に応じた配置やデザインなど）、また、使いやすく（アクセスや施設相互の関連性など）するために、効果的な集約と再配置が必要であると考えます。

一例として、施設ごとに行っている会議室や多目的ルームなどを貸出しするサービス（ヤングコミュニティセンター、パートナーセンター、勤労福祉センターなど）を一つの施設に統合し、効率化を図ることが挙げられ、これらによって利便性の向上や市民交流の活性化といった効果が期待できる。

③サンパーク（人工地盤）の有効活用

バスセンター上部にあるサンパーク（人工地盤）が有効利用されていない。中心市街地の限りある貴重な空間として、上下空間をつなぐ工夫等の改修を行い利用を促進する。



サンパーク(人工地盤)

④あつぎ大通りのトランジットモール※化に向けた有効性の検証

本厚木駅までの公共交通の幹線道路である「あつぎ大通り」については、朝夕の一般車両の進入規制等を行っているが、更に駅周辺における歩行者動線の快適性を高めるため、公共交通優先策を検討する。

※トランジットモール

中心街の通りを、一般の車両通行を抑制した歩行者優先の空間とし、バス、路面電車等、公共交通機関だけが通行できるようにした街路のこと



あつぎ大通り

⑤本厚木駅舎のリニューアルと、周辺商店街への賑わいの広がり

本厚木駅東口を出た通りは、目抜き通りであり、この通りを改善し、中央改札口と連携しながら回遊性と滞留性の向上を図り、賑わいを商店街へつなげるなど、本厚木駅を降りたときに、「変わったな」と思わせるまちづくりを展開する。



本厚木駅構内



本厚木駅東口

⑥バスや自転車交通の整備による快適性の向上

バス利用を促進し、交通機能の利便性を上げるとともに、自転車専用道路等の設置により、歩行者と自転車を区分するなど、交通機能の向上を図り、歩いて楽しめる快適な街をつくる。



(例) 自転車専用道路



⑦企業等送迎バスの環境改善と観光バスの活用

市内企業や大学などへの支援として、通勤通学者の利便性や安全性の向上を図るため、企業等送迎バスの発着場の確保が必要である。

また、路上駐車している観光バス対策と併せて、街の賑わい創出の手段として活用できないか検討する必要がある。



駅南口周辺

⑧中心市街地における駐車場の有効活用

平面駐車場が増加する中、一部の駐車場を活用して、商店街の各店舗が屋台等を常設することや時間を楽しむことのできるイベント等を期間を設けずに行うなど、新たな賑わいを創出する。



平面駐車場



空地活用例:ウッドデッキやテーブルを設け、おしゃべり等が楽しめる空間として活用(佐賀市内)

(3) 相模川を利用したまちづくり

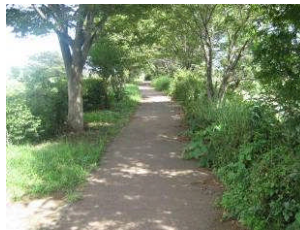
①市街地近隣の自然をいかした遊歩道やサイクリングロード、気軽に楽しめるバーベキュー場等、交流の場の整備

厚木には相模川という大きな自然があり、その親水空間や動線の整備などにより、街の持つ資源を磨き、舟運や宿場で栄えた厚木の歴史と文化を継承する景観が創出される。

具体的には、川沿いに咲く草花を観賞できる遊歩道や安全性が確保され快適に走行できるサイクリングロードの整備、人が集いitくなるようなバーベキュー場等を整備し、憩いの場の創出を進める。



(例)多摩川サイクリングロード



(例)相模川遊歩道



(例)親水公園バーベキュー場

②河川までのアクセスロードの整備や魅力アップ

本厚木駅南口から県道酒井金田線へ向かう「相模川プロムナード」には、厚木生まれの商店をいかしながら民間資本を活用したオープンカフェなどアメニティ空間を創出することにより、相模川へ楽しく歩くための序章となるような快適な歩行者ネットワークを形成し、回遊性を高める。

デザインされた入口案内等の整備をすることにより利用の向上を図る



相模川までのアクセスロード(一部)

③特色ある商店街（小江戸風商店、レトロな商店）や旧跡（厚木神社）等の活用

本厚木駅から相模川までの区間を楽しみながら歩けるように、あゆみ橋付近の商店街では小江戸情緒を醸し出し、中央通りではレトロな街なみを感じさせるなど、旧跡(厚木神社、大鷲神社)等、歴史的資源の活用による回遊性の向上を図ることにより、パワースポットとして人を呼び込める魅力的なまちづくりを進める。



商店街(東町)



商店街(中央通り)



厚木神社

(4) 文化芸術をいかしたまちづくり

① 駅近くへのホールなどの配置による活動の場の提供

文化芸術に気軽に触れ合える環境整備として、利便性の良い街なかに市民が発表や練習が行える多目的ホールを配置することで、文化芸術活動が豊かになるまちづくりが可能だと思う。



ホール イメージ図

② 気軽に触れ合うことのできる創造力豊かな文化芸術環境の整備

街なかに芸術作品があることは、文化芸術への意識が自然に高まることから、気軽に作品を発表できる場として、例えばメルヘンチックになるように道路空間を整備し、創造力が豊かになるようなまちづくりをする。



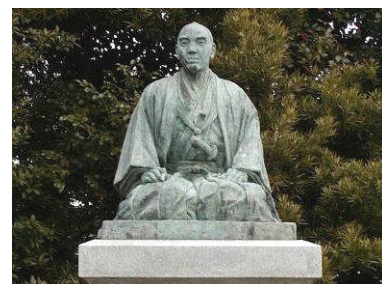
中央通り「モニュメント」

③ 思わず回遊したくなるような、歴史を学べる銅像等の配置

「厚木の子どもたちの歴史観は日本一」を掲げ、厚木に縁のある文化人及び歴史上の人物の銅像等を街路樹との調和を図りながら配置し、親子で…友人と…歩いて楽しく学べるまちづくりをする。



渡辺華山来遊記念碑(東町)



厚木に縁のある方や歴史上の人物の銅像等を設置【例 渡辺華山】

(5) 既存の資源・ストックを活用したまちづくり

①七沢・飯山温泉、大山、相模川、宮ヶ瀬等の観光資源の活用

厚木市への人の流入を図るため、市内・周辺観光地等を積極的に利用したPRにより、市内来街者の増加が見込まれる。



七沢温泉



大山



荻野(広町公園)

②在勤・通学者等を取り込んだ滞留・回遊・散策等への誘導

本厚木駅は、毎日約14万人以上の電車による乗降客と約4万5千人のバス利用者があり、これを資源と捉え、近隣市には無い専門店の集積を図るなどの工夫により、通勤・通学者の購買意欲を高め、厚木の街なかを回遊し滞留してもらえる取組をする。

③通りごとにテーマ性を持った仕掛けづくり

商店街等の各通りには、デザイン的に人を引きつける魅力ある通りが少ないため、各通りにテーマを持たせる仕掛けをつくるなど、特徴ある道づくりをする。



なかちょう大通り



一番街通り



中央通り

(6) 市が進めるまちづくり

現在、市が進めているまちづくりについて、次のとおり意見をまとめました。

①中町第2-2地区周辺整備事業

厚木業務核都市のセンター地区である本厚木駅周辺にあって、特に公共施設が集積した地区であることから、これらの施設の集約・再配置と併せて、官民協働事業により、新たに生み出される『空間』を魅力的にする必要がある。

また、区域については約4.5haと広いため、市有地部分など先行的に進めることができるエリアから順に事業化を図っていくことは、適切である。ただし、この場合、全体の整備構想を基本軸として、個々のエリアの役割分担が明確となるように計画をしていくことが重要である。

なお、新たに整備を行う公共施設については、集客力とデザイン性を兼ね備えるとともに、市の目玉政策（子育て・教育環境日本一など）を市内外に発信できるような機能を導入すべきである。

②本厚木駅南口地区市街地再開発事業

厚木市の玄関口である本厚木駅の南口正面に、民間資本による都市型の多機能ビルが再開発事業として計画されている。このビルを、集客機能の高いものとし、上層階は街なか居住を進めるための住宅とすることに対しては、適当と考える。

その際、街なかの景観に配慮した魅力的な厚木の顔となるような事業推進ができるよう、市が主導権を持って民間をコントロールすることが必要である。

③本厚木駅東口地下道の有効活用

本厚木駅からバスセンター、なかちょう大通りや商業ビルへの重要な動線として、中町第2-2地区周辺の再整備や、本厚木駅の駅舎リニューアルなどに併せ、明るく清潔、使いやすく安心な地下道とすることが不可欠である。

有効活用を図る再整備に当たっては、色彩の工夫など「歩行者がいかん快適に歩いて行けるか」という視点で計画することが重要と考える。

④一番街周辺地区整備事業

一番街の整備においては、人を呼び込む核の導入が必要であり、広域的な求心力を高める必要があるため、一番街入口正面に、民間活力による個性的でシンボリックな建物を整備するなど、厚木市の顔となる駅前のみちづくりが必要である。

また、新たな発想により品格と賑わいあふれるまちづくりを進めるために、点在している平面駐車場などの高度利用と併せ、特徴あるデザインに配慮した通りとなるような整備を誘導することが必要である。

⑤厚木パークビル(旧パルコ)の再生

本厚木駅から一番街通りをつなぐ商業の核であり、平成20年2月の閉店により、活気の減少の原因となっていると考えられる。

街なかの賑わいを回復するためにも、文化芸術などの快適性を高める公共施設(図書館、郷土資料館の移設等)の導入も含め、市が先導して施設の再生を進めることを求める。

■ 本厚木駅周辺位置図

